

はじめに

3月11日に発生した東日本大震災では、想像を超える被害をもたらし、今なお多くの方々が避難生活を余儀なくされています。市立病院では、震災直後に被災地からのお産の受入れや入院患者のベッド確保などの後方支援の受け入れを表明いたしました。今後も、被災地における医療支援について可能な限りの協力をいたしてまいります。被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げるとともに、1日も早い復興を祈念しています。

さて、平成22年度は、地方公営企業法の全部適用から1年が経過し、箕面市立病院改革プランを推進していくため、様々な施策を具現化してきた年でもありました。改革プランとして3つの重点課題を掲げていますが、1点目の「連携で培う地域医療の推進」では、11月に念願の地域医療支援病院の承認を受けることができました。特に、難関であった紹介率や逆紹介率の承認要件の達成に向けては、各診療科の医師をはじめ関係職員による懸命な努力によって達成することができました。これを機会により一層、地域の医療機関との連携を強化し、医療の質とサービスの向上に努め、皆様に信頼される病院として地域医療に貢献してまいります。2点目の「市民が望む良質な医療の提供」では、がん診療推進部の設置に伴いがん診療を受診される患者さまの支援体制の充実を図りました。また、全身用X線コンピューター断層撮影装置の導入や血管造影検査装置の更新、鏡視下（内視鏡）手術の充実を図り、高度・専門医療を推進するための整備を行いました。3点面の「経営の健全化」では、平成22年度の診療報酬改定に伴う新たな施設基準の取得、病床稼働率の向上、未収金の削減に向けた各種の取組を行い、収益面では昨年度に比べ約5億円の増加を図ることができました。単年度の収支差では2億2千4百万円の赤字となりましたが、昨年度に比べ赤字幅を3億5千2百万円縮小することができました。

9月には、念願でありました市立病院敷地内へのバスの乗り入れが実現することができました。これまで、路線バスを降車後、坂道を登って来院いただいた患者さまにはご不便をおかけしていましたが、箕面コミュニティバス「オレンジゆずるバス」の拠点の停留所となり、どの路線を利用しても市立病院への乗降車が可能となりました。

平成22年度は、改革プランの着実な実行により、経営の健全化において一定の成果を収めることができました。医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっておりますが、今後も引き続き、経営の健全化により、質の高い医療サービスを提供し、「地域の皆様に信頼され、愛される病院」として地域医療に貢献してまいります。

平成23年8月

箕面市病院事業管理者 重松 剛

箕面市立病院総長 田村 信司

箕面市立病院病院長 黒川 英司